阪神・淡路大震災から30年を迎えて　たかとりコミュニティセンターの歩み

ゆるゆる多文化、いとをかし

1927年～ カトリック鷹取教会

1952年～1987年
鷹取幼稚園

1993年8月
ベンポスタ子ども共和国
（サーカス歓送迎会受け入れ）

【ベンポスタ子ども共和国】
「ベンポスタ子ども共和国」は、スペイン・オレンセの町で、貧しく教育も受けず職もない青少年たちのための自立支援として、シルバ神父が1956年に設立し、サーカスで世界に平和を伝え、青少年たちの自治によって運営される共同体。

【教会新生のための基本方針】
第二バチカン公会議（1962～65年）に始まるローマカトリック教会刷新の動きを受け、日本の教会では「開かれた教会づくり」を基本的な課題とした「福音宣教推進全国会議（略称NICE）」が開催された（1987年と1993年）。カトリック大阪大司教区でも教会の刷新が取り組まれ、震災後はその歩みが「新生計画」の中に位置づけられた。1995年2月2日に発表された「教会新生のための基本方針」では「大阪教区が目指す阪神大震災からの「再建」計画は、単に地震以前の状態に復旧することではない。キリストの十字架と復活（過越の神秘）の新しい生命に与る「新生」への計画である」と記されている。この流れが、教会と地域とNPOが連携する現在のたかとりコミュニティセンターの姿へとつながっている。

1995年1月17日 阪神・淡路大震災
1995年1月18日 鷹取教会救援基地（ゴリラ隊・ウサギ隊）

【震災直後】
震災直後から被災地に集まったボランティアたち。たかとりでは、一人ひとりニックネームがつけられ、自ら考え、個性味豊かな活動が続けられた。がれきの片づけなど力による活動を担ったのは「ゴリラ隊」。ボランティアたちの食事づくりを担ったのが「ウサギ隊」などと呼ばれていた。炊き出しをするグループの申し出がたくさんあり、大国公園やその他の場所で毎日炊き出しを続けることができた。

1995年1月27日
臨時診療所
（カトリック医師会から
医師・看護師が派遣された）

1995年1月27日
青池組
（ドキュメンタリー映画撮影隊）

1995年1月31日
被災ベトナム人救援連絡会

1995年4月16日
ミニFM放送局 FMユーメン（ベトナム語他）

1995年4月16日
まちの保健室

1995年7月17日
ミニFM放送局 FMわぃわぃ

1995年12月12日
株式会社エフエムわぃわぃ

1996年1月17日に放送免許を取得。コミュニティラジオ局として正式開局。呼称は「FMわぃわぃ」。

1997年2月11日
神戸 定住外国人支援センター

1997年2月
アジア女性自立プロジェクト

【ウッディ・クリエイト南木曽】
1995年の秋、震災の復興支援として、長野県南木曽町の木材をTCCに届けてくれたことから交流が始まり、その後も神戸と南木曽を訪問しあい、関わりのある大学生のフィールドスタディ受け入れなど、関係の幅が広がっている。

1997年10月12日（震災1000日）
「たかとり救援基地」に名称変更

1996年1月～2000年5月
神戸 アジアタウン推進協議会

1999年5月～2010年
ツール・ド・コミュニケーション

【Re:C】
外国ルーツの子どもたちの表現・発信活動として、ツールドとキッズが合同で実施した活動プログラム。これまで映像やラップで多くの作品が生まれた。

2000年4月1日
多言語センターFACIL

2000年4月23日
たかとりコミュニティセンター

2000年4月30日
リーフグリーン

2000年4月1日
ワールド・キッズ・コミュニティ
（関西ブラジル人コミュニティ／
ひょうごラティーノ）

2000年8月9日
特定非営利活動法人たかとりコミュニティセンター（TCC）

2004年～2011年
わぃわぃクラブ

2001年6月1日
NGOベトナムinKOBE

2004年6月5日
ひょうごんテック

【プロキューブ】
2007年にツール・ド・わぃわぃ（わぃわぃクラブ含む＝わぃわぃのNPO法人への移行とともに解散）、ワールドキッズコミュニティ、FACILの4団体が、経営戦略としてグループ運営を開始。2016年にコミュニティラジオ局FMわぃわぃの放送免許返却時にグループ運営を終了。

2005年1月27日
特定非営利活動法人リーフグリーン

2005年1月17日
カトリックたかとり教会に名称変更

【アスタ移転】
2005年4月～2007年5月、たかとり教会改築中は、新長田のアスタに拠点を移行。

2005年4月～2007年5月
アスタ移転

【ねねバー】
ボランティアのための炊き出しの土曜日チームメンバーが、たかとり教会改築後に、たかとりコミュニティセンターの入口にて、活動に関わるメンバーや来客の交流の場として始めたカウンターバー。ここには、国籍を超えた老若男女が集う。

2007年6月
AMARCジャパン

2011年1月21日
特定非営利活動法人エフエムわぃわぃ

2013年4月1日
ベトナム夢KOBE

2014年9月1日
特定非営利活動法人
アジア女性自立プロジェクト

2006年8月1日
特定非営利活動法人
多言語センターFACIL

2005年8月
JRたかとり駅前
自転車駐輪場

2011年4月1日
ひょうごラテンコミュニティ

2023年7月
社会福祉法人
神戸 少年の町
児童家庭地域支援室

たかとりコミュニティセンター関連団体の動き

野田北部まちづくり協議会

1994年7月
アジア女性自立プロジェクト

FMサラン（大阪市生野区）

1995年1月29日 FMヨボセヨ（韓国語）

1995年10月15日
兵庫県定住外国人生活復興センター

1995年2月14日
阪神・淡路大震災地元NGO救援連絡会議
分科会外国人救援ネット

1996年6月23日
ウッディ・クリエイト南木曽
（長野県南木曽町）

1996年4月1日
NGO神戸 外国人救援ネットとして設立

1997年3月7日
震災を生きる宗教者の集い（わるがき会）発足

1998年
多文化共生センター神戸
1998年6月
ワールド・キッズ・コミュニティ
1999年6月
多言語センターFACIL(ファシル)

1999年1月
第1回 1.17KOBEに灯りをinながた
（新長田）

2001年1月
神戸 定住外国人支援センター

【関西ブラジル人コミュニティ】
2003年4月、キッズから独立し「海外移住と文化の交流センター」に拠点を移して活動を継続。

2001年4月
ひょうご市民活動協議会

2003年4月
関西ブラジル人コミュニティ独立

2003年 アトピー的自由計画

2002年1月 野田北ふるさとネット

1948年
社会福祉法人 神戸 少年の町

1948年～ 児童養護施設開設
1967年～ 乳児院開設
2025年～ 児童家庭支援センター開設

カトリックたかとり教会

フランス人宣教師たちによって1927年に設立。アジアの人々が多く暮らす町の中にあり、日本人だけでなくコリアの人たちも集う教会としてスタート。1950年には幼稚園もでき地域とのつながりが深まっていた。1980年代からはベトナム難民の人たちも加わり、アジア的で多文化な教会として歩み続けてきた。1992年にベトナムからキリスト像もやってきた。1995年に被災したが倒れず立ち続けた。奇跡のキリスト像と言われ、救援活動のシンボルとなり、人々が交わる教会として再スタートした。

特定非営利活動法人 リーフグリーン

高齢者や障がいを持っていても、住み慣れた地域で助け合ってくらし続けられるように、介護保険制度、障害者自立支援制度、神戸市からの委託による子育て支援制度はもとより、対象から外れた方のお手伝い（ホームヘルプ、移送サービス、便利屋、ゴミ出しサポート、子育て支援）をしています。また、出会いの場としての「ゆいカフェ」を実施し、お互いが生き生きと安心して暮らせる地域社会を目指しています。

特定非営利活動法人 エフエムわぃわぃ

「多文化共生と人間らしいまちづくり」をコンセプトに多様な市民が番組をつくり、発信するコミュニティ・メディアです。発信だけでなく「まち」の人々が集い、生の情報交換と新たな知恵を創造するサロンにもなっています。インターネットの特性を生かし、長田と世界をつなぐポータルサイトをめざしています。また国内外の被災地で防災力向上の取組みを実施、AMARC（世界コミュニティラジオ放送連盟）の日本の窓口でもあります。

ベトナム 夢 KOBE

ベトナム人と日本人で構成されたメンバーによって、多様な文化的背景を持つ人びとにとって住みやすいまちづくり、多文化共生社会の実現に向けて、さまざまな活動を行っています。ベトナム語による生活相談、子どものための母語教室・学習支援教室、日本語教室、翻訳・通訳、ニュースレターの発行、学校でのベトナム文化紹介、インターネットラジオ番組制作など、ベトナム人と日本人との相互理解を目指した活動を展開しています。

ひょうごんテック

NPO活動・市民活動の現場では、ICT(情報通信技術)はなくてはならないものです。ICTに伴う様々な問題を解決し、効果的に活用できるよう、IT支援の団体や人のネットワークづくりを目指しています。さらに自由に使うことができるOSS（オープンソースソフトウェア）の活用も進めています。TCC内の団体も含め、団体へのアドバイスや下支え、講座を開催するなどの活動をおこなっています。

特定非営利活動法人 アジア女性自立プロジェクト（AWEP）

フィリピンから日本に働きに来た女性たちの帰国後を支援するために1994年に設立しました。彼女たちの仕事づくりのためにフェアトレードの製品開発と販売を行うとともに、阪神・淡路大震災以降は、神戸を中心に外国人女性の相談や情報提供などを行っています。国籍、性別、民族などの違いに関わりなく、一人ひとりが主体的に生きることのできる社会を皆さんとともに創りたいと考えています。

特定非営利活動法人 多言語センターFACIL

地域住民である外国人が必要とする情報の翻訳、生活現場で必要な通訳者の派遣など、地域の多言語環境を促進し、また外国人を含む地域の住民や行政機関、医療機関、地域の企業などからの多言語・多文化なニーズに様々な形でお応えしています。専門分野でありながら「ボランティア」の領域であった活動をNPOのコミュニティビジネスとして75言語で展開しています。2022年度より、ワールドキッズコミュニティはFACILの中のプログラムとして活動を続けています。

一般社団法人 ひょうごラテンコミュニティ

2000年よりワールドキッズコミュニティ内で活動を始め、2011年に団体として独立し、2022年に一般社団法人となりました。南米出身者自身が中心となり、スペイン語圏出身住民の日本社会での生活向上と社会参画に向けたコミュニケーションの促進、地域住民との交流などの取り組みを続けています。スペイン語による生活相談、月刊誌やラジオ番組制作、子どもの母語/学習支援教室などを進めています。

社会福祉法人 神戸少年の町 児童家庭地域支援室

2023年7月、「児童福祉施設と地域をつなぐソーシャルワーク拠点」としてTCC内に児童家庭地域支援室を開設し、区役所をはじめ神戸市西部地域の関係機関へのコンサルテーション、保護者支援、里親支援専門相談員への支援等を中心に活動しています。2025年には垂水区内に児童家庭支援センターを開設し、支援者支援だけではなく、さらに専門性を活かして地域における多彩な子育て支援を実践します。TCC内では分室としての活動を引き続き展開していきます。

野田北ふるさとネット

野田北ふるさとネットは、野田北部地域を愛する組織・団体・個人のネットワークです。震災復興まちづくりの経験を生かし、日常の地域課題解決に協働し、積極的に取り組んでいます。また、それら活動のプロセスで学んだ事例を、内外に発信しています。

壁新聞「阪神・淡路大震災から30年を迎えて：たかとりコミュニティセンターの歩み：ゆるゆる多文化、いとをかし」、発行：2025年1月17日、制作：林貴哉 （壁新聞制作プロジェクト：神田裕・ツエット・野上恵美・林貴哉・吉富志津代・吉野太郎）